

授業科目名	人体の構造 (筋・骨・神経系の構造) Human Anatomy(1) (muscle, bone and nervous system)	履修年次： 必修:理・作1年	単位数： 1単位30時間	担当教員名： 科目責任者 山本 達也[脳神経内科医師](研究室:仁戸名9) 金子 徹[リハビリテーション科医師](研究室:仁戸名2)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、人体の構造に関する基礎的な知識(総論)を学んだ上で、骨・関節・筋・神経系(中枢神経・末梢神経)などの解剖学的な知識を修得できることを目標に、以下のテーマで授業を進めていく。 骨・関節・筋 中枢神経 末梢神経				
〔授業の概要〕 人体の構造のうち骨・関節・筋・神経系(中枢神経・末梢神経)などの構造について解剖学的な知識を修得する。本科目は、講義に加え、各種標本などを用いた演習形式により、骨、関節、筋、中枢神経、末梢神経のそれぞれの構造についての理解を深めることを目的とする。リハビリテーション科医師、脳神経内科医師の実務経験に基づき骨、関節、筋、中枢神経、末梢神経の講義を行う。 キーワード:骨、関節、筋、中枢神経、末梢神経				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/8	解剖学総論1	解剖学用語と人体の区分	山本 達也
第2回	4/15	解剖学総論2	人体の構成	金子 徹
第3回	4/22	解剖学総論3	人体の発生	金子 徹
第4回	5/13	骨・関節	骨・関節総論	金子 徹
第5回	5/20	骨・筋学1	骨筋学(上肢)	金子 徹
第6回	5/27	骨・筋学2	骨筋学(下肢)	金子 徹
第7回	6/3	中枢神経1	総論、髄膜、脳室	山本 達也
第8回	6/10	中枢神経2	大脳皮質、大脳白質	山本 達也
第9回	6/17	中枢神経3	中枢神経の血管	山本 達也
第10回	6/24	中枢神経4	大脳基底核、視床	山本 達也
第11回	7/1	中枢神経5	視床下部、大脳辺縁系、小脳	山本 達也
第12回	7/8	中枢神経6	脳幹、脊髄	山本 達也
第13回	7/22	末梢神経	末梢神経、自律神経	山本 達也
第14回	7/29	細胞の構造と機能	細胞分子生物学入門	山本 達也
第15回	7/30	まとめ	全体のまとめ	山本 達也
履修条件	特になし			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨。			
テキスト	野村 嶺編「標準理学療法学・作業療法学 解剖学(第5版)」医学書院			
参考書・参考資料等	井上貴央監訳「カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで」(西村書店) 「グレイ解剖学 原著第4版」塩田浩平 秋田恵一 監訳(ELSEVIER)			
学生に対する評価	定期試験(90%)、学習態度(10%)等により、総合的に評価する。			

授業科目名	人体の構造 (脈管, 内臓, 感覚器の構造) (Human Anatomy)	履修年次: 必修: 理・作1年	単位数: 1単位 30時間	担当教員名: 科目責任者 山本達也 (脳神経内科医師) (仁戸名研究室 9) 加瀬政彦(医師)(A210)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 理学療法, 作業療法を学習する上で重要な人体の構造に関する知識を習得する。本科目は, 系統解剖学として, 循環器系, 内臓学(消化器系, 呼吸器系, 泌尿器系, 生殖器系, 内分泌系等の器官), 感覚器系の基礎的な知識を中心とした構造を理解し, 説明できることを目的とする。				
〔授業の概要〕 人体について, 器官から個体までの構造を理解し, 考察できる能力を身につけることを目的にする。主に全身における内臓の構造と構成について系統的に学習し, それぞれがどのような位置関係にあるか修得する。脳神経内科医としての実務経験, 医学部における人体構造実習の経験に基づいて行う。				
キーワード: 消化器系, 呼吸器系, 泌尿器系, 生殖器系, 内分泌系, 頭蓋, 感覚器系				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/7	頭頸部1	頭蓋骨	山本 達也
第2回	10/21	胸部1	胸郭	加瀬 政彦
第3回	10/28	胸部2	心臓	加瀬 政彦
第4回	11/11	胸部3	気道, 肺	加瀬 政彦
第5回	11/18	腹部1	腹部概要, 腹壁	山本 達也
第6回	11/25	腹部2	胃, 十二指腸, 小腸, 大腸, 直腸, 肛門	山本 達也
第7回	12/2	腹部3	肝臓, 胆嚢, 膵臓, 脾臓	山本 達也
第8回	12/9	骨盤と会陰1	骨盤腔, 会陰, 膀胱	山本 達也
第9回	12/16	骨盤と会陰2	生殖器(男性, 女性)	山本 達也
第10回	12/23	内分泌系	下垂体, 副腎, 甲状腺	山本 達也
第11回	1/6	頭頸部2	口腔, 咽頭, 食道, 頸部	山本 達也
第12回	1/20	頭頸部3	脳神経(頭蓋外の構造)	山本 達也
第13回	1/27	頭頸部4	脳神経(頭蓋外の構造)	山本 達也
第14回	1/29	頭頸部5	感覚器(眼球, 耳)	山本 達也
第15回	2/3	まとめ	全体のまとめ	山本 達也
履修条件	特になし			
予習・復習	予習はテキストに目を通し, 復習は必ず行うことを推奨する。			
テキスト	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学第5版」野村巖 編集 (医学書院)			
参考書・参考資料等	「カラー人体解剖学 構造と機能: ミクロからマクロまで」井上貴央 監訳 (西村書店) 「グレイ解剖学 原著第4版」塩田浩平 秋田恵一 監訳 (ELSEVIER)			
学生に対する評価	定期試験(90%) 学習態度(10%)			

授業 科目名	人体の構造実習 Human Anatomy (practice)	履修年次: 必修:理・作1年次	単位数: 1単位 45時間	担当教員名: 山本 達也
		実務経験のある教員による授業科目	コード:RBB202	[脳神経内科医師] (研究室:仁戸名9)、 金子 徹[リハビリテーション 科医師](研究室:仁戸名2)、 江戸 優裕[理学療法士]、 松尾 真輔[作業療法士]
〔DP〕 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 人体の構造を三次元的に理解する。局所解剖としての骨・筋・神経・血管・内臓器の立体的構造を、解剖学用語を用いて説明できることを目標とする。				
〔授業の概要〕 解剖学アトラス・骨格標本のスケッチを通して人体の局所解剖を理解する。また、臨床と関連づけて骨の構造・関節運動・脳神経画像を理解する。リハビリテーション科医師、脳神経内科医師、理学療法士、作業療法士の実務経験に基づき学修の支援を行う。				
キーワード:骨、筋、神経、血管、内臓器				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1,2回	10/2	頭頸部	頭部・頭蓋骨、頸部	山本 達也
第3,4回	10/9	脊柱	頸椎・胸椎・腰椎	金子 徹
第5,6回	10/16	脊髄	脊髄神経根と脊髄	金子 徹
第7,8回	10/23	上肢1、体幹	上肢帯、上腕、前腕、体幹	金子 徹 松尾 真輔
第9,10回	10/30	上肢2	手、上肢の神経・血管	金子 徹 松尾 真輔
第11,12回	11/6	下肢1	骨盤、大腿、下腿	金子 徹 江戸 優裕
第13,14回	11/13	下肢2	足部、下肢の神経・血管	金子 徹 江戸 優裕
第15,16回	11/20	胸部	胸郭、肺、心臓	山本 達也
第17,18回	11/27	腹部	消化管、肝臓、腎臓	山本 達也
第19,20回	12/4	骨盤	泌尿生殖器	山本 達也
第21,22回	12/11	脳	脳画像理解の基礎	山本 達也
第23回	12/18	神経解剖	神経系の画像検査	山本 達也
履修条件	「運動学」・「機能解剖学」と関連させて学修すること。			
予習・復習	予習・復習としてテキストを熟読のこと。			
テキスト	野村 嶺編「標準理学療法学・作業療法学 解剖学(第5版)」医学書院			
参考書・参考資料等	井上貴央監訳「カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで」西村書店 「グレイ解剖学 原著第4版」塩田浩平 秋田恵一 監訳(ELSEVIER)			
学生に対する評価	定期試験(50%)、ｽｯﾌﾟ(40%)、学習態度(10%)により評価する。			

授業 科目名	人体の機能Ⅰ(動物性機能) (Human Physiology)	履修年次:	単位数:	担当教員名: 笠置泰史 [医師] (非常勤講師室)
		必修:理・作1年	1単位15時間	
			コード:RBB203	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 人体の正常機能についての知識とともに、生理学的な見方と思考力を習得します				
〔授業の概要〕まず細胞の一般的性質を概観する。さらに神経・筋などの興奮性組織の特性、その機能としての運動、感覚および自律機能、統合機能としての認知・行動について学び、それを分子的、生物学的基盤の上に基礎づけます。				
キーワード:細胞の一般機能、シグナル伝達、膜電位、興奮伝導、シナプス伝達、シナプスの可塑性、反射、筋、興奮収縮連関、運動、協調運動、感覚、自律機能、認知、記憶、学習、統合機能				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	04/08	細胞の一般機能1	生命の分子組成・細胞膜および細胞小器官の機能	
第2回	04/15	細胞の一般機能2	各論:タンパク質合成系・エネルギー代謝系・細胞骨格系・シグナル伝達系など	
第3回	04/22	興奮する細胞1	静止電位・活動電位の成因	
第4回	05/13	興奮する細胞2	活動電位および伝導の特性	
第5回	05/20	細胞間コミュニケーション1	シナプス伝達およびシナプス統合	
第6回	05/27	細胞間コミュニケーション2	シナプス後細胞の調節と、シナプスの可塑性	
第7回	06/03	筋の収縮1	筋収縮の分子メカニズム・興奮収縮連関	
第8回	06/10	筋の収縮2	筋収縮の物理的諸特性とその基盤	
第9回	06/17	運動機能とその調節1	運動単位とその脊髄レベルでの統合	
第10回	06/24	運動機能とその調節2	脳幹および小脳における運動調節	
第11回	07/01	運動機能とその調節3	大脳皮質および基底核における運動調節	
第12回	07/08	感覚機能とその統合1	感覚総論・化学受容(嗅覚・味覚)	
第13回	07/22	感覚機能とその統合2	体性感覚	
第14回	07/25	感覚機能とその統合3	特殊感覚(視覚・聴覚)	
第15回	07/29	統合機能	認知と統合機能 大脳連合野 行動と意識の基盤 自律神経系と大脳辺縁系	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習はテキストを熟読。復習はノートの見直し。		
テキスト		大地陸男『生理学テキスト』第9版(2022) 文光堂		
参考書・参考資料等		「標準生理学」第9版(2019)本間 研一 監修(医学書院) 「ガイドン生理学(原著第13版)」John E. Hall 著(エルゼビア・ジャパン) 「カandel神経科学 第2版(原著第6版)」エリックRカandel他(MEDSi) 「記憶のしくみ 上下」エリックRカandel他(講談社ブルーバックス)		
学生に対する評価		筆記試験(85% 再試において口頭試問を実施する場合あり) 授業態度(15%)		

授業 科目名	人体の機能 II (植物性機能) (Human Physiology)	履修年次 :	単位数 :	担当教員名: 笠置泰史 [医師] (非常勤講師室)
		必修 : 理・作 1 年	1 単位 15 時間	
			コード : RBB204	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 人体の正常機能についての知識とともに、生理学的な見方と思考力を習得します。				
〔授業の概要〕 生命の基本単位である細胞が、その中で適応を維持する内部環境としての体液について概観し、その恒常性を維持する各機能系、及びそれらの調節を担う系について、その分子的、生物学的基盤をもとに学びます。				
キーワード: 植物性機能、Hb 酸素解離曲線、生体防御、体液性免疫、細胞性免疫、止血、凝固系、線維素溶解系、心筋、興奮伝導系、血圧、圧受容器反射、血管拡張物質、肺活量、一秒量、呼吸商、化学受容器反射、限外濾過、ネフロン、糸球体濾過量、アルドステロン、抗利尿ホルモン、蠕動運動、分節運動、管腔内消化、膜消化 ガストリン、インスリン、同化、異化、有酸素代謝、解糖系				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ ー マ	内 容	
第 1 回	10/07	血液 1	血漿の機能 赤血球の機能	
第 2 回	10/21	血液 2	生体防御 / 免疫系 止血系	
第 3 回	10/28	心臓 1	ポンプ作用の力学的特性 心筋の特性	
第 4 回	11/11	心臓 2	興奮伝導系・心電図 心臓の調節	
第 5 回	11/18	循環系 1	循環の全身性調節 血圧 静脈還流	
第 6 回	11/25	循環系 2	循環の局所性調節 運動時の循環調節	
第 7 回	12/02	呼吸系 1	運動としての呼吸 呼吸生理学の諸指標	
第 8 回	12/09	呼吸系 2	換気の化学 呼吸調節	
第 9 回	12/16	腎機能 1	ネフロンの機能とその基盤	
第 10 回	12/23	腎機能 2	体液の量・浸透圧・組成・pH の調節	
第 11 回	01/07	消化・吸収・代謝系 1	消化管の運動・消化液の分泌・消化の調節	
第 12 回	01/20	消化・吸収・代謝系 2	同化と異化・基礎代謝量、各栄養素の代謝系と調節	
第 13 回	01/27	内分泌系 1	ホルモンとは?・ホルモンの調節系	
第 14 回	01/29	内分泌系 2	各論: 各ホルモンの分泌機序と調節	
第 15 回	02/03	生殖	性周期とそのホルモンによる調節 受精 分娩	
履修条件	特になし。			
予習・復習	予習はテキストを熟読。復習はノートの見直し。			
テキスト	大地陸男『生理学テキスト』第9版(2022) 文光堂			
参考書・参考資料等	「標準生理学」第9版(2019) 本間 研一 監修(医学書院) 「ガイドン生理学(原著第13版)」John E. Hall 著(エルゼビア・ジャパン)			
学生に対する評価	筆記試験(85% 再試において口頭試問を実施する場合あり) 授業態度(15%)			

授業科目名	人体の機能実習 (Physiological Practice)	履修年次： 必修：理・作 2年	単位数： 1単位 45時間	担当教員名： 大谷拓哉[理学療法士] (仁戸名研究室 11) 稲垣武[理学療法士]、坂崎純太郎[理学療法士]、藤田佳男[作業療法士]、松尾真輔[作業療法士]、成田悠哉[作業療法士]、遠藤隆志(非常勤講師)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識， 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 1学年時に履修したりハビリテーション領域に必要な運動神経、感覚神経、呼吸循環の生理学の理論を理解します。実験を通して、人体の機能の再確認を行います。 実験の結果を統合する科学的思考能力の修得を進めます。				
〔授業の概要〕 運動、感覚、呼吸循環といった理学療法・作業療法を学習する上で重要な人体の機能について生理学的な実習・実験を通して理解を深めます。本科目では、電気生理学的手法、運動生理学的手法等を用い、学生同士の実習を行います。実験結果はレポートにまとめながら内容の理解を促すとともに、最終回にプレゼンテーションを行い、相互の内容の共有と理解の確認を図ります。				
キーワード：電気生理学、神経生理学、運動生理学				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/16	オリエンテーション	実習内容、課題などについての説明	大谷拓哉
第2・3回	4/23	・筋電図 ・循環機能 ・視覚機能 ・未定	筋疲労など運動時の筋活動電位・変化の測定 安静時の循環機能測定 視覚機能の測定(盲斑・対光反射) 未定	遠藤隆志 藤田佳男 松尾真輔 坂崎純太郎
第4・5回	4/30	〃	〃	〃
第6・7回	5/7	〃	〃	〃
第8・9回	5/14	〃	〃	〃
第10・11回	5/21	実習まとめ1	第1クールの実習のまとめを行う	大谷拓哉
第12・13回	5/28	・誘発筋電図 ・反応時間 ・表在感覚 ・循環機能	脊髄反射回路(H反射など)と神経伝導速度の測定 反応時間の計測 触覚、痛覚の分布、2点識別覚など異なる条件下での循環機能	遠藤隆志 稲垣武 成田悠哉 大谷拓哉
第14・15回	6/4	〃	〃	〃
第16・17回	6/11	〃	〃	〃
第18・19回	6/18	〃	〃	〃
第20・21回	7/2	実習まとめ2	実習全体のまとめ(グループワーク)	大谷拓哉
第22・23回	7/9	発表会	実習で学んだ内容の発表	全教員
履修条件	シラバスの先修条件を参照してください。			
予習・復習	予習として、人体の機能で学んだ内容を復習してください。 復習として、実習で学んだ内容をレポートにまとめてもらいます。			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	レポート(60%)、発表会への取組(20%)、学習態度(20%)で評価します。			

授業 科目名	運動学 Kinesiology I	履修年次: 必修：理1年	単位数： 1単位 30時間	担当教員名: 大谷拓哉[理学療法士] (研究室：仁戸名研究室11)
		実務経験のある教員による授業科目		
		コード：RBB205		
〔DP〕 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 理学療法に必要な運動(力)学、生体力学の基礎を習得する。加えて、四肢・体幹の関節と筋の相互作用を中心とした身体運動学について理解する。				
〔授業の概要〕 授業の前半では、身体運動学の理解に必要な生体力学を中心に講義する。授業後半では四肢・体幹の運動学について講義する。前半・後半とも理学療法士の実務経験を有する教員が担当する。				
キーワード：生体力学、身体運動学、解剖学				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	10/2	ガイダンス・運動学の基礎1	ガイダンス、運動学の歴史、身体運動と力学、身体運動の面と軸	
第2回	10/9	運動学の基礎2	運動と変位、力の合成と分解、Newtonの運動法則	
第3回	10/16	運動学の基礎3	質量と重量、力のモーメント	
第4回	10/23	運動学の基礎4	重心、てこのつり合い	
第5回	10/30	運動に関わる生体構造と機能1	骨、関節1	
第6回	11/6	運動に関わる生体構造と機能2	関節2、筋	
第7回	11/13	四肢と体幹の運動1	下肢の運動学1	
第8回	11/20	四肢と体幹の運動2	下肢の運動学2	
第9回	11/27	四肢と体幹の運動3	下肢の運動学3	
第10回	12/4	四肢と体幹の運動4	下肢の運動学4	
第11回	12/11	四肢と体幹の運動5	下肢の運動学5	
第12回	12/18	四肢と体幹の運動6	下肢の運動学6	
第13回	1/8	四肢と体幹の運動7	上肢の運動学1	
第14回	1/15	四肢と体幹の運動8	上肢の運動学2	
第15回	1/22	四肢と体幹の運動9	上肢の運動学3	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習として参考書の関連領域を読んでください。 復習として講義内容を整理してください。			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	基礎運動学(医歯薬出版)、筋骨格系のキネシオロジー(医歯薬出版)、標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学(医学書院)			
学生に対する評価	定期試験(90%)、学習態度(10%)により総合的に評価する。			

授業 科目名	運動学 Kinesiology	履修年次: 必修：理2年	単位数： 1単位 30時間	担当教員名: 大谷拓哉[理学療法士] (研究室：仁戸名研究室11)
		実務経験のある教員による授業科目		
		コード：RBB206		
〔DP〕 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 理学療法に必要な上肢および体幹の関節と筋の相互作用を中心とした身体運動学について理解する。加えて、基本的動作の運動学、運動力学の基礎を習得する。				
〔授業の概要〕 上肢および体幹部の運動学について講義する。加えて、歩き始めの運動学、運動力学について学習する。講義は理学療法士の実務経験を有する教員が担当する。				
キーワード：関節運動、上肢、体幹、床反力、COP、歩き始め				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/9	四肢と体幹の運動9	上肢の運動学3	
第2回	4/16	四肢と体幹の運動10	上肢の運動学4	
第3回	4/23	四肢と体幹の運動11	上肢の運動学5	
第4回	4/30	四肢と体幹の運動12	上肢の運動学6	
第5回	5/7	四肢と体幹の運動13	上肢の運動学7	
第6回	5/14	四肢と体幹の運動14	脊柱・体幹の運動学1	
第7回	5/21	四肢と体幹の運動15	脊柱・体幹の運動学2	
第8回	5/28	四肢と体幹の運動16	脊柱・体幹の運動学3	
第9回	6/4	動作の生体力学1	支持基底面、床反力、床反力・重力と重心の運動	
第10回	6/11	動作の生体力学2	床反力作用点、床反力作用線	
第11回	6/18	動作の生体力学3	関節における力のモーメントのつり合い	
第12回	6/25	歩き始め1	歩き始めのCOP、床反力	
第13回	7/2	歩き始め2	歩き始めの重心位置、重心加速度	
第14回	7/9	歩き始め3	歩き始めの関節モーメント	
第15回	7/16	まとめ	講義の総括を行う	
履修条件	先修条件を確認してください。			
予習・復習	予習として参考書の関連領域を読んでください。 復習として講義内容を整理してください。			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	基礎運動学(医歯薬出版)、筋骨格系のキネシオロジー(医歯薬出版)、標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学(医学書院)			
学生に対する評価	定期試験(90%)、学習態度(10%)により総合的に評価する。			

授業 科目名	運動学実習 Kinesiology (practice)	履修年次: 必修:理2年	単位数: 1単位:45時間 コード:RBB301	科目責任者: 大谷拓哉 [理学療法士] (仁戸名研究室11) 江戸優裕 [理学療法士]、 坂崎 純太郎 [理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 計測実習および実習内容をまとめる過程を通して、運動学 ・ で学んだ内容の理解を深める。				
〔授業の概要〕 運動学 および運動学 で学習したことを踏まえ実習を行う。トルクマシン、床反力計、重心動揺計、3次元動作解析装置および表面筋電計などを用いて、ヒトの運動や筋活動を運動学的、運動力学的、筋電図学的に計測・分析する。計測、分析、考察のプロセスを通して、運動学 ・ で修得した知識を深める。学生は3グループに分かれ、ローテーションしながら実習を進める。実習内容はレポートにまとめるとともに、いずれか一つのテーマについてプレゼンテーションを行う。すべての単元は理学療法士の実務経験を有する教員が担当する キーワード: 運動学、姿勢制御、歩行、関節トルク、神経・筋運動単位、三次元動作解析				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/1	オリエンテーション	実習内容、課題についての説明	大谷拓哉
第2回	10/8,	実習(1期)	静的姿勢制御	坂崎純太郎
第3回	10/22,		動作開始時の運動制御	江戸優裕
第4回	10/29		肩甲骨腕リズム	大谷拓哉
第5回	11/12,		関節トルク	大谷拓哉
第6回	11/19,	実習(2期)	神経・筋運動単位	坂崎純太郎
第7回	11/26		定常歩行の運動制御	江戸優裕
第8回	12/10	実習まとめ	実習のまとめ(グループワーク)	大谷拓哉
第9回	12/17	発表	グループごとに発表を行う	全員
履修条件	特になし			
予習・復習	予習として各単元のテーマについて参考書等を確認してください。復習は講義内容を整理してください。			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	「計測法入門 計り方・図る意味」 協同医書出版			
学生に対する評価	課題(80%)、学習態度(20%)により総合的に評価する。			

授業 科目名	臨床運動学 Clinical Kinesiology	履修年次:	単位数:	担当教員名: 大谷拓哉[理学療法士] (研究室:仁戸名研究室11)
		必修:理学2年	1単位30時間	
		選択:作業2年	コード:RBB302	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 ヒトの姿勢ならびに動作の運動学的特徴を理解する。動作の観察ならびに分析方法を理解する。各種疾患や障害に起因する異常歩行の特徴を理解する。すべての単元を理学療法士の実務経験のある教員が担当する。				
〔授業の概要〕 ヒトの姿勢や基本動作ならびに疾病や外傷などにより生じた障害から発生する逸脱運動について基本的知識を習得する。動作に影響を与える運動障害には筋や関節といった運動効果器によるものから、下位運動中枢、上位中枢の神経障害によるものまで幅広い障害像が考えられる。本科目では正常な動作ならびにさまざまな原因によって起こる逸脱運動の発生メカニズムを理解するとともに、動作の運動学的解析方法について演習を加えながら、学生の理解を図る。 ----- キーワード: 姿勢、動作、動作分析、歩行				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	10/1	歩行1	歩行時の重心位置、重心加速度	
第2回	10/8	歩行2	歩行時の床反力、関節モーメント	
第3回	10/22	歩行3	歩行時のパワー	
第4回	10/29	歩行4	歩行時の筋活動1	
第5回	11/5	歩行5	歩行時の筋活動2、ロッカー機能	
第6回	11/12	歩行6	歩行時の各関節の分析	
第7回	11/19	異常歩行1	歩行の逸脱運動1	
第8回	11/26	異常歩行2	歩行の逸脱運動2	
第9回	12/3	立位姿勢1	立位の筋活動、頭頸部のつり合い、片脚立位のつり合い(基礎)	
第10回	12/10	立位姿勢2	片脚立位のつり合い(応用)	
第11回	12/17	基本動作	基本動作のバイオメカニクス	
第12回	1/7	異常動作1	基本動作の逸脱運動1	
第13回	1/14	異常動作2	基本動作の逸脱運動2	
第14回	1/21	動作分析の実際	動作分析の演習	
第15回	1/28	まとめ	講義全体の総括	
履修条件		シラバスの先修条件を参照してください。		
予習・復習		予習として参考書の関連領域を読んでください。 復習として講義内容を整理してください。		
テキスト		特になし		
参考書・参考資料等		基礎運動学(医歯薬出版) 臨床運動学(医歯薬出版) 15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学(中山書店) 15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学(中山書店)		
学生に対する評価		定期試験(90%)、学習態度(10%)により総合的に評価する。		

授業 科目名	機能解剖学 (Functional Anatomy)	履修年次: 必修:理学1年	単位数: 1単位30時間	担当教員名: 科目責任者 江戸優裕 (仁戸名研究室12) 稲垣 武(仁戸名東校舎1) 坂崎純太郎(仁戸名助教室) [いずれも理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 身体各部位における運動器(骨・筋・関節など)や内臓の位置や形状を三次元的に理解する。そのうえで、骨のランドマークや筋および靭帯などを体表から触診する技術を習得する。				
〔授業の概要〕 人体の構造 および人体の構造実習で学んだ解剖学的知識を基礎とし、運動器や内臓の構造について理解を深める授業である。人体模型や超音波エコー画像を併用することにより運動器や内臓の構造を三次元的に捉えるとともに、体表からの触診方法について講義と実技を通じて学ぶ。担当教員の理学療法士としての実務経験に基づいてこれらの学習支援を行う。				
キーワード: 体表解剖、ランドマーク、触診、運動器、内臓、超音波エコー画像				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1回	10/2	初エントリ 機能解剖と触診	受講にあたっての注意事項と成績評価 機能解剖と触診の基本	江戸優裕
第2回	10/9	体幹	体幹の機能解剖と触診(主に骨)	江戸優裕・坂崎純太郎
第3回	10/16	体幹	" (主に筋)	江戸優裕・坂崎純太郎
第4回	10/23	内臓	臓器の機能解剖と触診(主に胸部)	稲垣 武・坂崎純太郎
第5回	10/30	内臓	" (主に腹部・血管)	稲垣 武・坂崎純太郎
第6回	11/6	肩関節	肩関節の機能解剖と触診(主に骨)	江戸優裕・坂崎純太郎
第7回	11/13	肩関節	" (主に筋)	江戸優裕・坂崎純太郎
第8回	11/20	肘関節	肘関節の機能解剖と触診	江戸優裕・坂崎純太郎
第9回	11/27	手関節・手	手部の機能解剖と触診	江戸優裕・坂崎純太郎
第10回	12/4	股関節	股関節の機能解剖と触診(主に骨)	江戸優裕・坂崎純太郎
第11回	12/11	股関節	" (主に筋)	江戸優裕・坂崎純太郎
第12回	12/18	膝関節	膝関節の機能解剖と触診(主に骨)	江戸優裕・坂崎純太郎
第13回	1/8	膝関節	" (主に筋)	江戸優裕・坂崎純太郎
第14回	1/15	足関節・足	足部の機能解剖と触診(主に骨)	江戸優裕・坂崎純太郎
第15回	1/22	足関節・足	" (主に筋)	江戸優裕・坂崎純太郎
履修条件	特になし。実技を行うため運動着で出席すること。			
予習・復習	予習は人体の構造 および人体の構造実習の内容(解剖学)を再確認し、復習は授業内容を振り返ること。			
テキスト	配布資料、「機能解剖と触診」工藤慎太郎編(羊土社)			
参考書・参考資料等	運動療法のための機能解剖学的触診技術-上肢-/ -下肢・体幹-(メジカルビュー) 機能解剖と運動療法(羊土社)			
学生に対する評価	筆記試験(80%)・日ごろの学習態度(20%)			

授業 科目名	人間工学 (Human factors and Ergonomics)	履修年次: 選択:理・作 2年	単位数: 1 単位 30 時間	担当教員名: 科目責任者 下村 義弘 高原良[会社代表取締役]、 竹内弥彦[PT]、吉野智佳子 [OT] (全員非常勤講師)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 この講義では、人間とそれを取り巻く機器や環境、運用の全体を考えて健康増進を図るという人間工学の基礎を学ぶ。また福祉・リハビリテーションの現場、あるいは医療・福祉・労働などの応用テーマを取り上げ、最新知見とともに論理的な評価や設計の手法についても学ぶ。学生の学習目標は以下の通り。人間工学そのものを理解する、人間工学とそれぞれの専門性との関係を自ら考える、人間工学で使われる基礎的手法の一部を理解する。				
〔授業の概要〕 本授業では4つのテーマを根幹に据えて、演習を交えながら人間工学について講義する。1.人間の特性を知り、それに合わせた製品や環境、やり方の実践方法を学ぶ。2.日常生活における身近な題材をもとに、自分自身で人間の特性を実感しながら問題発見とその課題化の意識を学ぶ。3.バイオメカニクスの観点から人間を科学的に検討、探求することを学ぶ。4.労働環境やそこにおける健康問題を通して、実学としての人間工学を学ぶ。 ----- キーワード:ヒトの計測と評価、機器や環境の設計、				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/2	人間工学とデザイン	人間工学の有用性	下村 義弘
第2回	10/9	日常生活と人間工学	身近な日常生活の中の工学	吉野 智佳子
第3回	10/16	日常生活と人間工学	「座る」を計る	吉野 智佳子
第4回	10/23	日常生活と人間工学	取り巻く環境と人間の暮らしやすさ	吉野 智佳子
第5回	10/30	人間工学とデザイン	デザインの発想の仕方・評価の仕方	下村 義弘
第6回	11/6	人間工学とデザイン	生体機能の点からの支援の考察	下村 義弘
第7回	11/13	人間工学とデザイン	自身の専門領域と人間工学をつなぐ	下村 義弘
第8回	11/20	労働環境と人間工学	人に配慮した家具デザインの実践	高原 良
第9回	11/27	労働環境と人間工学	人に配慮した空間デザインの実践	高原 良
第10回	12/4	労働環境と人間工学	健康増進を促す職場環境づくり	高原 良
第11回	12/11	労働環境と人間工学	テレワークへの対応	高原 良
第12回	12/18	身体運動のバイオメカニクス	生体力学パラメーター	竹内 弥彦
第13回	1/8	身体運動のバイオメカニクス	関節モーメント(筋力)を計る	竹内 弥彦
第14回	1/15	身体運動のバイオメカニクス	加速度センサを用いた身体運動計測	竹内 弥彦
第15回	1/22	身体運動のバイオメカニクス	転倒回避動作のバイオメカニクス	竹内 弥彦
履修条件	大学の規定に従う。			
予習・復習	配布されたレジュメや資料、自身がとった授業のノートを復習に活用すること。			
テキスト	担当教員が作成したテキストを使用する。			
参考書・参考資料等	講義中に適宜紹介などする。			
学生に対する評価	各教員による課題レポート(90%)、日ごろの学習態度(10%)により総合的に評価。			

授業 科目名	人間発達学 Human development	履修年次: 必修:理・作2年	単位数: 1単位30時間	担当教員名: 有川 真弓[作業療法士] (研究室:仁戸名研究棟4)
			コード:RBB209	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 .倫理観とプロフェッショナリズム .実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 人はこの世界に生まれることによって、世界の環境の一員となり、環境との相互作用を始める。生活の中で体験する出来事を通して、個々人の様々な力を獲得し発達していく。人が発達していく過程を理解することで、発達過程の中で障害そのものがどのように影響するのかという観点から障害を理解することを目的とする。				
〔授業の概要〕 本科目では、胎児から発達学的な成長・生育の過程とその月齢指標や精神認知機能の発達と包括して、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期、老年期などについて、各段階の発達過程について理論的背景から理解する。本科目は作業療法士の実務経験に基づいた講義形式で行われる。 ----- キーワード:人間発達,発達過程,社会生活活動の発達,ライフステージと発達課題				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	4/11	人間発達学概論	オリエンテーション、発達の概念、原則、発達課題	
第2回	4/18	発達過程の各機能の発達	姿勢と運動の発達1	
第3回	4/25	発達過程の各機能の発達	姿勢と運動の発達2	
第4回	5/2	発達過程の各機能の発達	姿勢と運動の発達3	
第5回	5/9	発達過程の各機能の発達	姿勢と運動の発達4	
第6回	5/16	発達過程の各機能の発達	視機能・上肢機能の発達1	
第7回	5/23	発達過程の各機能の発達	視機能・上肢機能の発達2	
第8回	5/30	発達過程の各機能の発達	視機能・上肢機能の発達3	
第9回	6/6	発達過程の各機能の発達	認知機能の発達1	
第10回	6/13	社会生活活動の発達	認知機能の発達2	
第11回	6/20	社会生活活動の発達	コミュニケーションの発達	
第12回	6/27	社会生活活動の発達	コミュニケーションの発達	
第13回	7/4	社会生活活動の発達	ADLの発達	
第14回	7/11	社会生活活動の発達	摂食嚥下体験・ADLの発達	
第15回	7/18	社会生活活動の発達	摂食嚥下体験・ADLの発達	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはレジメの見直しを行うこと。			
テキスト	人間発達学(標準理学療法学・作業療法学)医学書院			
参考書・参考資料等	適宜紹介する			
学生に対する評価	学期末試験(100%)により評価する。			

授業 科目名	医学総論 Outline of medicine	履修年次：	単位数：	担当教員名： 金子 徹 〔リハビリテーション科医師〕 (研究室：仁戸名 2)
		必修：理・作 1 年	1 単位 15 時間 コード：RBB210	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識、倫理観とプロフェッショナリズム、コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 理学療法士・作業療法士に必要な医学・医療の基本的知識の獲得を目標とする。科学的根拠(サイエンス)に基づいて医学的基本知識を修得することはもちろんであるが、その知識や今後修得する治療技術は「社会で生活する患者という人間」に合わせて適応することが、「アート」であることを十分に理解・体得する。				
〔授業の概要〕 理学療法・作業療法を実施する上で重要な、単に治療技術のみに偏らない医療従事者としての基本的な素養を身につけるため、日本の医療システム、生命の尊厳や医の倫理などについて、基本的な知識を修得する。本科目は講義形式ではあるが、生命とはなにか、医学とはなにか(医学史を含む)、インフォームドコンセントや患者・治療者関係における基本的な態度を含め、医療と社会の関係を理解し学生自らが考えることを目的とする。整形外科・リハビリテーション科医師の実務経験に基づき学修の支援を行う。				
キーワード：サイエンス、アート、生老病死、医学史、インフォームド・コンセント				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ - マ	内 容	
第1回	10/3	医学と医療	科学的根拠に基づく医療、サイエンスとアート	
第2回	10/10	日本の医療システム	医療保険制度、医療法、医薬品医療機器等法	
第3回	10/17	生老病死()	生老病死、生命、健康	
第4回	10/24	生老病死()	老化、病気、疾病分類	
第5回	10/31	生老病死()	死因、死の判定、脳死、尊厳死、法医学	
第6回	11/7	医学・医療の歴史	医学・医療史	
第7回	11/14	予防医学・医の倫理	公衆衛生、保健所、公害、インフォームドコンセント	
第8回	11/21	現代医療の課題	医療訴訟、生殖医療、移植、代替医療	
履修条件	特になし。			
予習・復習	医学・医療関係のニュースに注目していること。 復習にはレジユメの見直しを推奨。			
テキスト	指定しない。			
参考書・参考資料等	「学生のための医療概論 第4版」小橋 元 他編 医学書院刊			
学生に対する評価	定期試験(90%)、日ごろの学習態度(10%)により評価する。			

授業 科目名	内科学総論 (Internal Medicine)	履修年次: 必修:理・作2年	単位数: 1単位 30時間	担当教員名: 山本 達也 [脳神経内科医師] (研究室:仁戸名9)	
		実務経験のある教員による授業科目			コード:RBB216
		〔DP〕 実践に必要な知識			倫理観とプロフェッショナリズム
〔授業の到達目標及びテーマ〕					
<p>内科疾患診療の基本について、臨床医学の最近の動向に関する公開資料などを活用しながら、病態に基づいた診療技術の観点から教授する。まず、臨床医学における内科疾患の位置づけと意義を総合的に把握することから始め、身体の診察技術や検査法ならびに多様な治療法の基本を学修する。目標としては</p> <p>内科的診断法、治療法の概要について説明できる。 主要な内科的疾患の治療の中で、理学・作業療法の果たす役割について説明できる。</p>					
〔授業の概要〕					
<p>主要な内科疾患の診断法および治療法について講義を行う。理解を助けるために適宜動画を組み入れて具体的な説明をおこなう。授業内容の概要はハンドアウトとして各講義の最初に提供し、次回講義前には理解確認のための小テストを課し、講義内容を確認するとともに発展的学修を促す。総合内科専門医、脳神経内科専門医の実務経験に基づき講義する。</p> <p>キーワード:内科診断学、臨床検査、薬物治療</p>					
〔授業計画〕					
回数	日付	テーマ	内容		
第1回	4/8	診療の基本	内科診療の基本		
第2回	4/15	内科診断学総論	医療面接、身体診察		
第3回	4/22	全身的な徴候	内科診療でよくみられる全身的徴候		
第4回	5/13	緊急性の高い徴候	急性腹症、意識障害、呼吸困難、急性冠症候群、消化管出血		
第5回	5/20	身体診察の基礎	理学的診察の基礎		
第6回	5/27	身体診察	胸部・腹部所見		
第7回	6/3	検体検査	検査値の解釈、主要な血液検査項目		
第8回	6/10	生理検査	心電図、呼吸機能		
第9回	6/17	画像検査	胸腹部CT		
第10回	6/24	内科治療総論	内科疾患の治療に関する基本的な考え方		
第11回	7/1	薬物療法1	薬理学の基本		
第12回	7/8	薬物療法2	理学・作業療法施行中に注意すべき薬物		
第13回	7/22	人工臓器	人工透析・レスピレーター、ペースメーカー		
第14回	7/29	老年科学入門	サルコペニア、フレイル対策など		
第15回	7/30	まとめ	全体のまとめ		
履修条件		特になし			
予習・復習		予習:教科書の該当部分を熟読 復習:配布プリントと教科書の復習			
テキスト		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学(第4版) 医学書院			
参考書・参考資料等		特になし			
学生に対する評価		定期試験 90%, 学習態度 10%			

授業 科目名	内科学各論 (Internal Medicine)	履修年次: 必修:理・作2年	単位数: 1単位30時間	担当教員名: 科目責任者 山本 達也 (脳神経内科医師) (研究室:仁戸名9) 太和田 暁之(内科医師)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 内科学総論で学んだ内科診療の基本的知識を踏まえ、主要な内科疾患の病態、診断、治療の概要について学び、治療体系の中で、理学・作業療法の果たす役割について学修する。到達目標としては ・主要な内科疾患の病態・診断について説明できる。 ・主要な内科的疾患の治療の中で、理学・作業療法の果たす役割について説明できる。				
〔授業の概要〕 主要な内科疾患の病態および講義を行う。授業内容の概要はハンドアウトとして各講義の最初に提供する。次回授業時には理解確認のための小テストを行い、講義内容を確認するとともに発展的学修を促す。内科医としての実務経験に基づいて講義を行う。				
キーワード:循環器、呼吸器、血液、消化器、腎、代謝内分泌、感染症、膠原病				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/4	循環器疾患	高血圧、心不全	山本 達也
第2回	10/4	循環器疾患	不整脈、虚血性心疾患	山本 達也
第3回	10/11	呼吸器疾患	誤嚥性肺炎、閉塞性疾患	山本 達也
第4回	10/11	呼吸器疾患	肺癌、肺血栓塞栓症	山本 達也
第5回	10/18	血液疾患	赤血球系の疾患、出血性疾患	山本 達也
第6回	10/18	血液疾患	腫瘍性血液疾患(白血病、悪性リンパ腫)	山本 達也
第7回	10/25	消化器疾患	消化管疾患	太和田 暁之
第8回	10/25	消化器疾患	肝胆膵疾患	太和田 暁之
第9回	11/1	腎臓疾患	糸球体疾患・尿管・間質性病変	山本 達也
第10回	11/1	感染症	感染症の診断、治療	山本 達也
第11回	11/8	代謝性疾患	糖尿病、脂質異常症	山本 達也
第12回	11/8	内分泌疾患	下垂体、副腎、甲状腺	山本 達也
第13回	11/15	自己免疫疾患	免疫系、アレルギー疾患	山本 達也
第14回	11/15	自己免疫疾患	膠原病	山本 達也
第15回	11/22	まとめ	授業全体のまとめ	山本 達也
履修条件	内科学総論を履修していることが望ましい。			
予習・復習	予習:教科書の該当部分を熟読 復習:配布資料と教科書内容の対応確認			
テキスト	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学(第3版) 医学書院			
参考書・参考資料等	特になし。			
学生に対する評価	定期試験 90%、学習態度 10%			

授業 科目名	神経内科学総論 Neurology	履修年次:	単位数:	担当教員名: 山本 達也 [脳神経内科医師] (研究室:仁戸名9)
		必修:理・作2年	1単位30時間	
		実務経験のある教員による授業科目	コード:RBBB218	
〔DP〕 実践に必要な知識、倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では理学療法・作業療法を実施する上で関連の深い脳神経内科学の基本的な考え方、問診・診察法の習得を目標に、以下のテーマで講義を進めていく。 脳神経内科総論 問診 意識障害・高次脳機能障害 脳神経の障害 運動障害 感覚障害 歩行障害・不随意運動 自律神経障害 検査				
〔授業の概要〕 神経系の障害で起こりうる症候を部位別に整理し、その診察法、検査法を習得し、病態について理解する。また、神経疾患の総合的な診断学、治療学を習得する。脳神経内科専門医の実務経験に基づき講義する。				
キーワード:脳神経内科学、症候、病態、診察、検査				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/8	脳神経内科とは	脳神経内科学の紹介	
第2回	4/15	神経疾患総論	脳神経内科で扱う神経疾患の紹介	
第3回	4/22	神経疾患の問診	問診から臨床診断へのプロセス	
第4回	5/13	意識障害	意識障害とその原因	
第5回	5/20	高次脳機能障害1	記憶・認知の障害	
第6回	5/27	高次脳機能障害2	言語・行為の障害	
第7回	6/3	脳神経	脳神経とその障害	
第8回	6/10	運動障害1	筋緊張・筋力・筋萎縮	
第9回	6/17	運動障害2	運動失調・錐体外路症状	
第10回	6/24	感覚障害・反射	表在感覚・深部/固有感覚・皮質感覚、腱反射・病的反射	
第11回	7/1	歩行障害	歩行障害の分類と原因疾患	
第12回	7/8	不随意運動	不随意運動の分類と原因疾患	
第13回	7/22	自律神経障害1、検査	心血管系・発汗障害、髄液検査、生理学的検査	
第14回	7/29	自律神経障害2	排泄障害	
第15回	7/30	まとめ	全体のまとめ	
履修条件	人体の構造（筋・骨・神経系の構造）を履修していることが望ましい。			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨。			
テキスト	「脳神経内科学」 高橋伸佳編・著 理工図書			
参考書・参考資料等	特になし。			
学生に対する評価	定期試験（90%）、学習態度（10%）			

授業 科目名	神経内科学各論 Neurology	履修年次:	単位数:	担当教員名: 山本 達也 [脳神経内科医師] (研究室:仁戸名9)
		必修:理・作2年次	1単位30時間	
			コード:RBBB219	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では理学療法・作業療法を実施する上で関連の深い、脳神経内科学領域における各疾患についての知識を習得できることを目標に、以下のテーマで講義を進めていく。 機能的疾患、脳血管障害、認知機能障害、神経変性疾患、自己免疫性疾患、自己免疫性疾患、神経感染症、脊髄疾患、末梢神経疾患、筋疾患				
〔授業の概要〕 脳神経内科領域の各疾患について、臨床症状、検査法、治療法、病因、予防法、経過と予後などを学習する。脳神経内科領域の診療における最新の知見も紹介する。総合内科専門医、脳神経内科専門医の実務経験に基づいて講義する。				
キーワード:脳神経内科疾患、検査、診断、原因、治療				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	10/7	機能的疾患	頭痛・てんかん	
第2回	10/21	脳血管障害(1)	脳梗塞	
第3回	10/28	脳血管障害(2)	脳出血、クモ膜下出血	
第4回	11/11	認知機能障害(1)	アルツハイマー型認知症	
第5回	11/18	認知機能障害(2)	レビー小体型認知症	
第6回	11/25	神経変性疾患(1)	パーキンソン病	
第7回	12/2	神経変性疾患(2)	パーキンソン症候群	
第8回	12/9	神経変性疾患(3)	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症含む)	
第9回	12/16	神経変性疾患(4)	運動ニューロン疾患	
第10回	12/23	自己免疫性疾患(1)	多発性硬化症、視神経脊髄炎	
第11回	1/6	自己免疫性疾患(2)	重症筋無力症、炎症性筋疾患	
第12回	1/20	神経感染症	髄膜炎、脳炎、プリオン病	
第13回	1/27	脊髄疾患	脊髄炎、脊髄血管障害、脊髄空洞症	
第14回	1/29	末梢神経疾患	ギランバレー症候群、糖尿病性ニューロパチーなど	
第15回	2/3	まとめ	授業全体のまとめ	
履修条件	脳神経内科学総論を履修していることが望ましい。			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨。			
テキスト	「脳神経内科学」 高橋伸佳編・著 理工図書			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験(90%)、学習態度(10%)			

授業 科目名	整形外総論 General orthopedics	履修年次： 理・作 2年	単位数： 1 単位 30 時間	担当教員名： 金子 徹 [リハビリテーション科医 師](研究室：仁戸名 2)	
		実務経験のある教員による授業科目			コード：RBB305
		〔DP〕 実践に必要な知識、倫理観とプロフェッショナリズム、コミュニケーション能力			
〔授業の到達目標及びテーマ〕 運動器の外科である整形外科学の知識を、理学療法・作業療法と関連づけて修得することを目標とする。解剖学・生理学・病理学・運動学の知識を基礎として、整形外科学的診断・治療・合併症を理解し、専門用語を用いて、説明できることを目標とする。					
〔授業の概要〕 運動器（骨・関節）の構造と機能を再確認しつつ、運動器疾患の病態を理解する。整形外科的検査法、症候学、診断学（画像診断学を含む）、治療法（保存的治療・観血的治療）、合併症を理解することを目的とする。整形外科学総論と各論は、一連の流れとして講義を行うが、整形外科医師・リハビリテーション科医師の実務経験に基づき学修の支援を行う。					
キーワード：運動器、診断学、保存治療、手術療法、外傷学					
〔授業計画〕					
回数	日付	テ ー マ	内 容		
第1回	4/9	整形外科の歴史	Orthopedie、整形外科、ロコモ		
第2回	4/16	整形外科学的診察	問診、視診		
第3回	4/23	画像診断	単純X線、CT、MRI、造影検査、PET		
第4回	4/30	検査法（補助診断法）	触診、生体検査、身体計測		
第5回	5/7	整形外科学的治療法1	保存治療、薬物療法、装具療法		
第6回	5/14	整形外科学的治療法2	手術療法1		
第7回	5/21	整形外科学的治療法3	手術療法2、麻酔		
第8回	5/28	外傷1	軟部組織損傷		
第9回	6/4	外傷2	熱傷、骨折、脱臼、後遺症		
第10回	6/11	慢性関節疾患	変形性関節症、痛風、血友病		
第11回	6/18	リウマチ・感染症	関節リウマチ、強直性脊椎炎、骨髄炎		
第12回	6/25	小児整形外科	発育性股関節形成不全、斜頸、先天性内反足、二分脊椎		
第13回	7/2	腫瘍、骨系統疾患	良性骨腫瘍、悪性骨腫瘍、骨系統疾患		
第14回	7/9	神経・筋疾患	末梢神経障害、脳性麻痺、筋ジストロフィー		
第15回	7/16	代謝・内分泌疾患	骨粗鬆症、代謝・内分泌疾患		
履修条件	人体の構造、人体の機能、病理学、運動学と関連づけて学習すること。				
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはレジユメの見直しを推奨。				
テキスト	「整形外科学テキスト 改訂第4版」高橋 邦泰編 南江堂刊				
参考書・参考資料等	「標準整形外科学 第14版」中村 利孝編 医学書院刊 など				
学生に対する評価	定期試験（90%）、日ごろの学習態度（10%）により評価する。				

授業 科目名	整形外科学各論 Orthopedics	履修年次： 理・作 2年	単位数： 1 単位 30 時間	担当教員名： 金子 徹 [リハビリテーション 科医師] (研究室：仁戸名 2)
		実務経験のある教員による授業科目		
		コード：RBB306		
〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム, コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
整形外科学の個々の外傷・疾患の知識を、理学療法・作業療法と関連づけて修得することを目標とする。解剖学・生理学・病理学・運動学の知識を基礎として、整形外科学的診断・治療・合併症を理解し、専門用語を用いて、説明できることを目標とする。				
〔授業の概要〕				
運動器（骨・関節）の構造と機能を再確認しつつ、個々の運動器疾患の外傷・疾患の病態を理解する。				
整形外科学的検査法、症候学、診断学（画像診断学を含む）、治療法（保存的治療・観血的治療）、合併症を理解することを目的とする。整形外科医師の実務経験に基づき学修の支援を行う。遠隔授業で行う。				
キーワード：運動器、診断学、保存治療、手術療法、外傷学				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ - マ	内 容	
第1回	10/7	脊椎の外傷・疾患 1	脊椎・脊髄の外傷（頸椎・胸椎・腰椎損傷，脊髄損傷）	
第2回	10/21	脊椎の外傷・疾患 2	頸椎疾患（頸椎捻挫，頸椎症等）	
第3回	10/28	脊椎の外傷・疾患 3	腰椎疾患（腰痛症，腰部脊柱管狭窄症等）	
第4回	11/11	肩関節および上腕 1	肩・上腕の外傷、肩関節不安定症	
第5回	11/18	肩関節および上腕 2	肩関節の変性疾患、肩関節のスポーツ障害	
第6回	11/25	肘関節および前腕	肘・前腕の外傷、肘関節疾患	
第7回	12/2	手の疾患と外傷 1	手関節と手指の外傷	
第8回	12/9	手の疾患と外傷 2	手関節と手指の疾患	
第9回	12/16	股関節部および大腿 1	骨盤外傷，股関節および大腿の外傷	
第10回	12/23	股関節部および大腿 2	股関節および大腿の疾患	
第11回	1/6	膝関節部および下腿 1	膝関節および下腿の外傷	
第12回	1/20	膝関節部および下腿 2	膝関節の疾患	
第13回	1/27	足の疾患と外傷	足関節と足部の外傷・疾患	
第14回	1/29	骨壊死症、切断	骨壊死性疾患・骨端症、四肢循環障害、四肢切断	
第15回	2/3	疼痛、スポーツ整形	慢性疼痛疾患、スポーツ整形外科	
履修条件	人体の構造、人体の機能、病理学、運動学の復習を並行して行うこと。			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはレジユメの見直しを推奨。			
テキスト	「整形外科学テキスト 改訂第4版」高橋 邦泰編 南江堂刊			
参考書・参考資料等	「標準整形外科学 第14版」井樋 栄二編 医学書院刊 など			
学生に対する評価	定期試験(90%)、日ごろの学習態度(10%)により評価する。			